

2025 年度日本木材学会中部支部大会（静岡）実施報告書

静岡大学 河合真吾, 平井浩文, 渡邊拡, 小島陽一, 森智夫
米田夕子, 小堀光, 小川敬多, 小野晶子

2025 年 10 月 16~17 日に、静岡大学静岡キャンパス農学総合棟において、2025 年度日本木材学会中部支部大会が開催されました。本大会は第 35 回を迎え、中部地域を中心とした大学・研究機関・企業に所属する木材研究者、技術者および学生が参加し、研究発表および意見交換が行われました。参加者は計 90 名で、そのうち学生は 32 名でした。

初日は、12 時より評議員会が開催され、その後に研究・技術発表会が行われました。13 時よりオープニングセレモニーが行われ、続いて口頭発表が実施されました。途中にはポスター発表の時間が設けられ、その後、再び口頭発表が行われ、クロージングセレモニーをもって 1 日目のプログラムが終了しました。口頭発表は 2 会場に分かれて各 11 件の計 22 件、ポスター発表は 21 件であり、合計 43 件の研究発表が行われました。発表内容は、化学系、生物系、物理系、力学系、土木工学系、LCA 関連、意識調査など多岐にわたり、幅広い分野の研究成果が報告されました。

クロージングセレモニーでは、今年度の地域功労賞の授賞式が行われました。今年度の受賞者は、岐阜県生活技術研究所の今西祐志氏および富山県農林水産総合技術センター木材研究所の柴和宏氏の 2 名です。今西氏は「温湿度環境下での木材・木質材料の変形挙動に関する研究と家具・建具製造業への技術支援」、柴氏は「地域材の土木利用における研究開発と普及」に関する功績により受賞されました。

18 時からは農学総合棟内第 3 食堂にて懇親会が開催されました。参加者は 42 名で、そのうち学生は 16 名でした。立食形式で実施され、研究内容に関する意見交換や、木材・森林に関する技術情報、研究・教育活動に関する情報交換などが行われました。懇親会の途中には優秀発表賞の授賞式が行われ、口頭発表からは A 会場および B 会場より各 1 件、ポスター発表からは全体より 2 件が選出されました。

2 日目には見学会が実施され、株式会社ノダ富士川工場を訪問しました。同工場は合板製造を主とする工場であり、到着後、会社および工場概要の説明を受けました。創業 120 年の歴史、材木商から合板製造へ事業展開した経緯、国産材・地域材利用の取り組みについて説明がありました。その後、工場内の見学を行い、皮むき後の丸太の煮沸工程から、ロータリーレースによる単板製造、単板の接合処理、乾燥、接着、表面加工に至るまで、各工程について実際の設備稼働状況を確認しながら説明を受けました。また、品質管理のための取り組みについても紹介されました。見学後には質疑応答の時間が設けられ、製造設備の設定条件や運用方針等について質問がありました。

当日は、口頭発表とポスター発表のスケジュールがタイトに設定されており、進行にあたっては座長および発表者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し

上げます。至らぬ点もあったかと思いますが、大きなトラブルなく無事に大会を終えることができたと思っております。大会にご参加いただいた皆様、ご協力いただいた株式会社ノダ富士川工場の関係各位に厚く御礼申し上げます。

【地域功労賞】

今西祐志氏（岐阜県生活技術研究所）

「温湿度環境下での木材・木質材料の変形挙動に関する研究と家具・建具製造業への技術支援」

柴和宏氏（富山県農林水産総合技術センター木材研究所）

「地域材の土木利用における研究開発と普及」

【優秀口頭発表賞】

A09 佐々木祐実氏（名大院生命農）

「スギ大径材の人工乾燥前後の残留応力特性」

B11 小玉啓氏（信大院農）

「DIC を用いた弾性特性評価に関する実験的検討」

【優秀ポスター発表賞】

P02 星野瑞葵氏（静大院総科技）

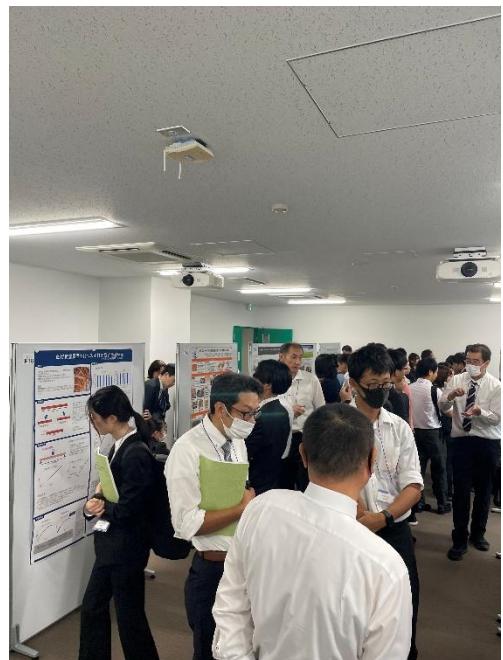
「ハイパースペクトルイメージングを用いた乾燥過程における木材の含水率と収縮率の同時計測技術の確立」

P21 松川悌己氏（名大院生命農）

「木材の DART (Direct Analysis in Real Time) -MS 分析／ケモメトリックス解析と古材の樹種判別への適用」



口頭発表会場の様子



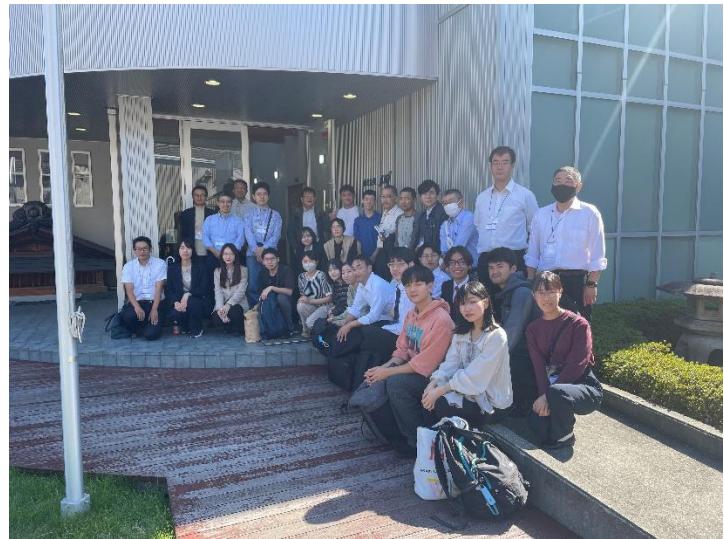
ポスター発表会場の様子



地域功労賞授与式



優秀口頭発表賞と優秀ポスター発表賞受賞者



株式会社ノダ富士川工場の見学会後の様子